

2020年度

(令和2年度)

CSR活動報告書

Comment

弊社では『三方よし』の精神で、「お客様」「従業員」「地域社会」から愛される経営を実現するために、CSR活動に力を入れています。

今年は緊急事態宣言を受けて、企業として様々な対応、国・自治体からの情報収集、新しい生活様式への対応等、慣れないことが多かったように思います。その状況下だからこそ、新しいツールの導入、テレワーク、オンライン教育・会議などプラスの要素を探して、新しい仕事のアイデアや社会への対応力が試された1年でした。

■ 従業員のために

1. 人材育成・教育（社内教育）



従業員の声

「学校で学んだときよりも細かいところまで教えていただけるので、とても勉強になりました。仕事にも少しずつ活かしていきたいです。」

「橋梁に限らずコンクリート製品全体についての検定なので、業務をしているだけではなかなか知りえない背景や豆知識的なことを知られて、楽しく学ぶことができました。」

2. 人材育成・教育（外部研修）

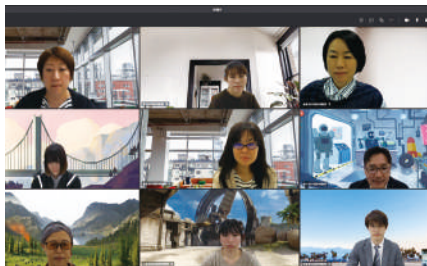


従業員の声

「オンライン研修の機会が増え普段関わりのない遠方地域・他業種の方と交流することができ、視野が少し広がりました。学んだことは仕事以外の場面でも活かせると思いました。」

「オンライン研修で会場まで行く手間がなくなった分、様々な講習会を受講することができました。学んだことを日頃から意識しようと思いました。」

3. テレワーク・ウェブ会議の実施



従業員の声

「通勤時間を家事に充てることができ、時間を有効に使うことができました。家事と仕事を両立できるので、今後もテレワークを積極的に活用したいです。」

「個人の環境にあわせて備品を購入していただいたので、快適に作業をすることができました。オンラインツールの導入も進み、業務の効率化という観点からも、よかったです。」

このほかにも…

仕事に生かせる本や自己啓発のための書籍・セミナーなどの経費補助や、健康管理購入補助などの福利厚生を社員の声を聞きながら充実させています。

■ お客様のために

1. 技術研鑽への取り組み

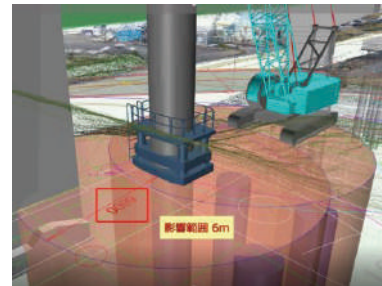


今年は取引先様と技術士試験合同勉強会を実施し、「技術士」の資格取得支援を行いました。当社技術顧問と有資格者による講座・論文添削によって、資格取得をサポートしました。他にも建設現場や製作工場の見学、業務毎のOJTを実施し、社員の技術力向上に努めています。

従業員の声

「他社の方と複数人で講座を受けて、意見交換したり教えていただいたりと、通常の業務では得られない知識を学ばせてもらいました。」
「実物を確認出来て理解が深まりました。セグメント桁の製作方法を直接聞けて勉強になりました。」

2.BIM/CIM 案件の増加



昨今BIM/CIM関連の需要の高まりを受け、依頼件数が増えています。今年は当社が関わったBIM/CIM業務において、国土交通省の「局長表彰」「事務所長表彰」を受賞することができ、質の高いサービスを提供することができました。また、バーチャル会場にて行われた「新技術交流イベント in Shizuoka2020」に出展しました。

社外の声

「施工計画を3次元化の4Dモデルで行うことにより、重機配置の妥当性や施工時の留意事項が抽出でき、設計の効率化および品質向上が図れました。」

このほかにも…

会社ホームページにキャリア採用向けのページを追加。企業としてさらなる向上を目指します。

■ 地域社会のために



1.CSR 検定特別協力団体への登録

ビジネスや組織運営における社会的責任の国際基準「ISO26000」や持続可能な開発目標「SDGs」などを、多くの企業や組織に理解してもらえよう、CSRの意義を広めるため、CSR検定の特別協力団体へ登録いたしました。

2. インターンシップ（大学生）

芸術系学部を専攻している学生に「工事案内看板」や「まんまる笑店 恩田社長との対談記事」を製作してもらいました。また、社員向けにAdobe製品を指南してもらい、学校で学んでいることやデザインの見せ方など、教える側としても学びがあったと感じています。

3. ツタワールドボク

自ら土木の意義と魅力を伝える想いに賛同し、「一般社団法人ツタワールドボク」の法人会員を継続しています。「インターネット会議」「オンライン全国会議2020」「SALON de バトン」に参加して、土木について継続的に意見交換しています。

4.FC岐阜

2014年から、FC岐阜への協賛を継続的にを行っています。

従業員の声

「CSR検定の勉強を通じて、言葉の意味や成り立ちを理解することが大切だと改めて感じました。」
「ツタワールドボクを通じて土木の世界で長年仕事をされている方々の思いやお話を聞くことができ、貴重な機会だったと思っています。」